



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 山本 良一
 お問合せ先 財務戦略統括部 IR推進部
 TEL 03-6895-0178

2018年11月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	11月度	9~11月度 累計	11月度	9~11月度 累計
百貨店事業	▲ 0.2	0.4	1.0	0.7
パルコ事業	▲ 7.4	▲ 4.1	▲ 4.9	▲ 1.9
不動産事業	10.7	17.4	11.0	16.7
クレジット金融事業	3.3	4.3	4.2	4.7
その他	▲ 23.0	▲ 12.7	▲ 21.8	▲ 11.1
連結合計	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 1.9	▲ 0.8

※1 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用いたしております。

※2 総額売上高

IFRS売上収益のうち百貨店事業と「その他(大丸興業)」の消化仕入取引を総額に、パルコ事業の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しております(なおパルコ事業では2017年度から日本基準の売上高を純額ベースで算出する方法に変更しております)。

※3 PARCO_ya(上野)は2017年11月4日に開店いたしました。

※4 本年3月から百貨店事業の大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しております。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- ・前年に比べて休日が▲1日減であったものの、訪日外国人客を含め化粧品、ラグジュアリーブランド、高級時計が好調を持続するとともに、食品では菓子が伸びた。
- ・店舗別では、東京店が27ヶ月連続で対前年プラスとなるなど、直営14店舗中6店舗が前年実績を上回った。
- ・大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、全店が対前年16.8%増(客数同27.2%増、客単価同▲8.2%減)、関西4店舗の免税売上高は、同17.4%増、札幌店は、同19.8%増であった。
- ・なお、大丸松坂屋百貨店の12月度の売上は、14日までの累計で対前年1%増、免税売上高は、25%増で推移している。

2) パルコ事業

- ・前年に比べて休日が▲1日減であったことに加えて、全国的に気温が高く推移したことなどにより、前月にダウンジャケットなど冬物衣料の需要が先行したセレクトショップを中心に衣料品の売上が振るわなかったことや、前年11月にオープンしたパルコヤ上野の前年の好調反動の影響を受けた。また、パルコスペースシステムズにおける前年の大型内装電気工事受注の反動影響などがあった。

3) 不動産事業・クレジット金融事業・その他

- ・不動産事業は、大丸神戸店周辺店舗からの移管分や上野フロンティアタワーの家賃収入が加わった。
- ・クレジット金融事業のJFRカードは、割賦販売手数料、加盟店手数料などが増加した。
- ・その他では、人材派遣業のディンプルが好調を持続したものの、建装事業における前年の百貨店大規模改装工事の反動減や卸売事業の苦戦が影響した。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 IR推進部・グループ広報推進部

TEL 03-6895-0178

FAX 03-6674-7565

2018年11月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	11月度		9～11月度 累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	▲0.3	1.6	▲0.8	2.5
大丸 梅田店	3.9	▲0.6	2.7	▲2.1
大丸 東京店	5.2	2.8	3.5	3.0
大丸 京都店	4.1	1.0	▲0.1	0.7
大丸 山科店	▲7.6	▲3.3	▲5.7	▲5.1
大丸 神戸店 (※)	▲0.3	▲2.4	2.7	2.1
大丸 須磨店	▲8.0	▲7.0	▲5.7	▲6.2
大丸 芦屋店	▲5.8	▲4.2	▲4.2	▲3.2
大丸 札幌店	4.5	3.0	0.2	▲0.9
松坂屋 名古屋店	1.2	0.7	1.7	6.1
松坂屋 上野店	▲1.3	▲25.2	5.9	4.0
松坂屋 静岡店	▲0.4	▲3.7	2.6	3.7
松坂屋 高槻店	0.6	▲2.6	▲0.9	▲3.5
松坂屋 豊田店	▲1.5	▲1.6	▲0.4	▲0.4
大丸松坂屋百貨店合計	1.7	▲1.3	1.4	▲1.9
博多大丸	2.6	1.4	2.8	3.7
下関大丸	0.2	3.9	▲0.9	▲0.8
高知大丸	2.6	0.1	▲1.3	3.0
百貨店事業合計	1.8	▲1.0	1.5	▲1.5

※1 本年3月から大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しているため、神戸店の売上高は「賃貸契約へ移管したテナントの前年売上実績を除いた実質の対前年増減率」で表示しています。参考数値として、前年に不動産事業への移管分を含めた11月度の大丸神戸店の売上は、対前年▲6.8%減。同じく9～11月度累計では、同▲4.3%減。

※2 合計の前年は大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を除く既存店ベース。

前年に大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を含めた11月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年0.9%増、百貨店事業合計 同1.0%増。同じく9～11月度累計は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年0.6%増、百貨店事業合計 同0.7%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	11月度	9～11月度 累計
紳士服・洋品	▲2.2	▲2.1
婦人服・洋品	0.2	▲1.0
子供服・洋品	▲8.6	▲9.0
その他の衣料品	▲2.8	▲3.4
衣料品計	▲0.7	▲1.7
身回品	▲3.3	▲3.5
化粧品	16.3	14.7
美術・宝飾・貴金属	7.4	1.1
その他雑貨	10.6	11.6
雑貨計	12.5	9.3
家具	1.8	▲5.3
家電	▲13.2	▲19.1
その他の家庭用品	▲6.4	▲6.2
家庭用品計	▲4.9	▲6.3
生鮮	▲3.1	▲0.4
菓子	4.5	4.3
惣菜	▲1.3	1.2
その他食料品	▲3.8	▲1.3
食料品計	▲0.3	1.4
食堂・喫茶	▲0.7	▲1.9
サービス	▲0.2	4.7
その他	▲16.4	▲3.2
合計	0.9	0.6

※ 合計の前年は、大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を含めていません。

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、気温の高さのためコートや防寒用ネックウェアなどが苦戦したが、ラグジュアリーブランドが好調を持続した。紳士服・洋品は、スーツやジャケットが好調であったものの、コートの動きが鈍かった。身回品は、ハンドバッグが好調であったものの、アクセサリ、婦人靴が苦戦した。雑貨は、高級時計が好調を持続するとともに、国内客、訪日外国人客ともに化粧品が引き続き伸びた。家庭用品は、大型催事の縮小が影響した。食品は、洋菓子が好調を持続したものの、生鮮食品の動きが鈍かった。